

「シン隊長のカブ日記」 9月

～感想文を通じたスカウトとの心の会話～

浜嶋鉦一郎

私は、隊長歴8年、年齢58歳のカブ隊長シンです。

よろしくお願いします。

9月は、新年度が始まります。新たな気持ちでスカウトを育てます。新しいスカウト、新しいデンリーダー、新しいデンコーチと一緒に活動を楽しみます。新年度は、10名のスカウトになり、2組編成になります。新しいカブ隊の船出です。

「頑張るぞー！」と力を込めて、この先の1年間に思いを巡らしました

~~~~~

### ■ 9月2日（火）：総会の1週間前

「新年度の始まり」

新年度の総会及び夏季活動の報告会は、気持ちが高ぶる。あれやこれやとやりたいことがいっぱいだ。少しずつ進めればいいが、気持ちは先走ってしまう。

スカウトへの連絡は、今まで通りに1週間前に私から保護者にメールを送る。総会は、資料を作ればいいが、自分の気持ちを説明するには時間が足りない。総会とはそういうものだ。代わりに舎営の作文集はしっかり作成した。24ページの大作になった。みんなに読んでほしい。各保護者に配るだけではもったいないので、団委員長をはじめ、主な団委員や各隊の隊長にも配る。こんなに頑張っているぞという意味だが、分かってくれるかなあ。1年間の活動記念として長く保存してくれると思う。私にとっては、これで、8年間の記録が蓄積されたことになる。

~~~~~

■ 9月6日（土）：総会の前日

「デンリーダーのルール」

明日からいよいよ新年度が始まるが、デンリーダーへの説明不足が悔やまれる。とりあえず、メールで送れば何回か読み直してくれるだろう。明日の活動で、すぐに役立つわけではないが、頭があれば対応できるだろう。

保護者のデンリーダーは、とにかく自分の子供に目が行きがちで、できないことを助けてしまったり、悪いことをすると叱ってしまう。子供は、困ったら自分の親のところに行ってしまう。隊集会で、そういう私的な行動を謹んでもらうために隊長と副長は注意をしておかなければならない。

浜嶋です。

今回、デンリーダーとして活動していただくことになりました。お子さんと一緒に行動することになりますが、保護者の立場とリーダーの立場を区別して行動をお願いします。

これは、お子さんを気にするとなかなか難しいことです。以下は参考にしてください。

お子さんはカブスカウトとして活動をしています。最初に「やくそく」をしたことをより所にしてください。自覚させるもとになります。

お父さんとお母さんは、デンリーダーとしての役割があります。活動中は親子ではないということをお互いに確認してください。

「家をでたらスカウトとリーダーの関係、家に入れば、親子にもどる」

これをお子さんに伝え、お互いに頑張ることを誓うこと。これはおもしろい関係になります。

そのために、普段と違う名前の呼び方をしてください。リーダーに変身したことがわかるようにしてあげてください。中崎リーダー、松本リーダーと呼ばせる。お母さんと言ったら、言い直させるようにしてください。

そして、お子さんとは組を変えましたから、デンリーダーは自分の組のスカウトのことを考え、自分の子供のことは忘れてください。観察はいいですが、世話をしてはいけません。お子さんには別のデンリーダーや副長がいます。今回は互いにお子さんを預けあっている関係ですから、お子さんが頼ってきても相手のデンリーダーに声をかけて、お世話を依頼してください。お子さんにも世話をできないことを伝えてください。

組が2つできましたから、隊集会では、かならず優秀組と優秀スカウトを選出し、閉会儀礼で表彰します。これは、常に1組と2組が競い合うのです。

これを目的として、隊集会では互いに優秀組を取ることで競争してください。

評価の基準は下記のようにいろいろあります。

【規律一般】

- ・集合の早さ
- ・元気のよさ。返事、歌。
- ・服装点検状況。

【競技の成績】

- ・勝負の勝敗率

【カブ隊のさだめの実施】

- ・カブ隊のさだめ「すじたおす」の実行

- ・組のまとまり

【組長次長の役目の実施】

- ・世話をやくこと、その姿。

【カブ隊の表彰】

- ・優秀組と優秀スカウトの決定は隊長と副長で相談してきめます。
- ・優秀組は表彰リボンを組旗につけます。
- ・優秀スカウトには、特製のグッズをあげます。

優秀組は、毎回一番頑張った組、よかった組を表彰します。年間でバランスよく各組が取れるようにします。必ずしも1番でなく、努力したことも評価しますから、それで交互に決めることもあります。カブ隊の表彰リボンに「優秀組 1組 平成20年9月度隊集会 「テーマ名：規律訓練」 2009.09.21」と書き込みます。表彰した後に、これを組旗につけます。その本数で何回優秀組を獲得できたかがわかります。

優秀スカウト賞は、各隊長によって様々なグッズを用意しています。私は、ボーイスカウトらしく結索を施したグッズを考えました。アイス棒を2つに切ります。十字にして端を接着剤で引っ付けます。その後で、登山用のカラフルなロープで巻き結びをして、2つのアイス棒を縛ります。中央に金色のカブ用のくまのミニホルダー（1つ100円）をロープに通して縛ります。これは、ロープの端が2本15cm出るようにしますので、ザックに縛って取りつけることができます。アイス棒の表面に「Good Scout」、「スカウトの名前」、裏に日付をこれも金色のインクで書き込みます。

「デンリーダーの役割」

さきほどはたくさん書いてしまったが、基本的な役割の説明も必要なので、さらにメールを送った。

浜嶋です。

基本的なデンリーダーの仕事について、説明します。

デンというのは、子供たちの隠れ家という意味で、デンリーダーはいわゆる組のリーダーです。大人の指導者です。

組は、組長次長によるスカウトが自主的に運営できる組織としての社会を形成しています。できるかぎり組長の指示のもとで作業を行なわせるようにしています。デンリーダーは組のリーダーではなく、組長が仲間のリーダーとして行動できるように導く役割を担当します。だから、こうなさいというよりも、どのように決めたらいいかをアドバイスするだけでいいです。自分が一生懸命になってはいけません。みんなが集中できる方法を考えてあげるのです。

隊集会のプログラムの内容については、リーダー会議で説明します。ゲームの答えにつ

いては、デンリーダーに教えない場合もあります。それは、隊集会のほとんどのプログラムは、デンリーダーも参加してやることにしているからです。隊集会では、リーダーは隊長、副長で、デンリーダーは組の一員です。スカウトと一緒に遊んでいただきます。一緒に行動して、スカウトの気持ちや感動を共有してください。

それで、隊集会のときの指示伝達は、隊長または副長から直接組長に行います。デンリーダーは会議で事前に内容を理解しているわけです。組長がどのようにするかを見守って、指導を行なってください。プログラムもお渡しします。

また、組長会議もあります。隊長と組長及び次長だけの会議です。隊集会の開始15分前とか集会の途中でやります。組長としてどう行動すればよいかを説明します。事前や事後に内容は皆さんにお知らせします。

組集会というのは、リーダー会議で決めたプログラムをデンリーダーが指導者となって実施するもので、隊長と副長は、参加するものの口出しはしないことが基本です。しかしながら、最近はそのような体制ができずに、合同組集会というやりかたをしています。一度やってみましょうね。12月のスカウト祭では演劇をテーマにやります。組別に準備しますから、組の集会が必要です。

組集会の計画は、簡単な計画書を作成して、報告書も提出してもらいます。雛形があります。

まだまだ、説明することは山ほどありそうです。なんでも聞いてください。デンリーダーハンドブックを明日お渡しします。

「舎営の作文集を名誉会長に渡す」

舎営の作文集は、保護者や団委員、隊長等の関係者に渡す。34部を作成した。

まず、その足で藤井名誉会長のところに伺った。毎回作文集を見るのを楽しみにしていただけいるのだ。また、誰よりも良く読んでくださる。数年前、総会の席で「カブ隊が一番しっかりやっているね」と話してくれたことが頭に残っている。名誉会長が喜ばれる顔が目に見えんできた。

「今年の舎営作文集ができました。3年連続で鉢伏高原で楽しみました」

「あぁーここだったら、一緒に行かせてもらったらよかったね。大江山にも行きましたでっしゃろ」

「そうでしたね。荷物を運んでももらいました。今回もお声を掛けたらよかったです。すみません。人数が少なくて、高速バスで行ってきました」

「また、読ませてもらいます。楽しみにしていますから、ははは」

まだまだ、お元気だった。

~~~~~

## ■ 9月7日（日）：総会当日

### 「新年度の始まり」

今日は、総会及び報告会だ。

朝、新しい組長の奈々ちゃんにちょっとしたことがあった。

8時15分にくらし館に行くと、もうスカウトが2名来ていた。うれしいね。一人はカブ隊からボーイ隊に上進する川口君だ。もう一人は今度組長になる大野君だ。この2人は従兄弟同士だ。スカウトは活動が楽しいと集合時間よりも早く集合すると言う。そのためにもリーダーはスカウトよりも早く集合するのがボーイスカウトのやり方だ。30分に集合だから15分も早く来ていたのだ。今日はいつもより早く集まっていたので、2人が楽しみにしていると思った。

「おはよう。」と声をかけた。

近くまで行って、また「おはよう」と顔を覗き込みながら言った。小さな声で、「おはよう」と返事があった。照れくさいのだろうか。

それから程なくスカウト、デンリーダー、副長、保護者がどんどん集まってきた。この間に舎営の作文集を各自に配った。くらし館の狭い敷地の通路にいっぱい集まった。

金田副長が、声をかけてきた。

「隊長、集合させますか」

全員集まったかなと確認すると、まだ2人来ていなかった。しかし、集合時間になったので、副長に整列させた。そこに次の組長になる松本奈々が、お父さんとやってきた。ベソをかいていた。

「あらー。奈々！ 今度組長だよ。」

「・・・・」

お父さんは、

「ちょっと、ブルーです。」

と教えてくれた。

「とにかく並びましょう」

あまり深刻に考えずに、そのまま並ばせた。

スカウトの前に立った私は、久しぶりに会ったスカウトが元気なことを確かめた。

「おはよう。今日から新しい年になるね。楽しいね。」

そして、今年の組編成、新しい組長と次長を紹介した。続いて、ボーイ隊から派遣されるデンコーチ2名と新しいデンリーダーを紹介した。デンリーダーは、お父さん、お母さんと呼ばないことを説明した。

修了式と入隊式は、いつものように行った。入隊式の終わりに次のように挨拶した。

「去年は、5人のスカウトから始まりましたが、今年は10人になりました。2組編成

で、競争をしながら楽しく遊んでいきたいと思います。みんな仲良く頑張ってください」

## 「報告会で頑張った！」

報告会が始まった。

カブ隊の報告は、夏の舎営について行ないます。今皆が着ているのは、動物を描いたTシャツです。まず、スタンプです。去年は、さっぱりできませんでしたが、今年はスカウトがやる気になって頑張りました。ジャングルブックのテーマです。

メンバーに左近君が増えていた。左近君は、舎営とお別れ会に参加していなかったのに、今日全く初めての参加だが、待機時間の間にスタンプに参加できるようにシナリオを考えた。

お別れ会で注意したことは少し修正されていた。川口君が一番元気で100%力を発揮できた。

世界のナベアツは、山寺君がうまく最後まで息が続いた。2番手の川口君は、ゆっくりな口調で大げさに始めた。もう堂々たるものだ。その後でスカウト全員が一行に並んで下村デンコーチと私が加わり10人で行なった。あっという間だ。終わったところでアンコールをしてもらえたので、2回目は早く行なうことにした。山寺君が間違えてしまったが、愛嬌だ。

すべての予定が終わると、新しいカブ隊のメンバーだけで、カブ隊の閉会儀礼を行った。いつもは横隊で行なってきたが、これからは、2列縦隊の隊形で集合することが多くなる。一人ひとりの顔を見るにはU字形で行なう方がいいのだ。狭い部屋の中で行なったので、縦隊にした。ここで、組長章、次長章、組別章を渡し、最初の仲良しの輪を各組でもらった。今日の隊集会は盛りだくさんだった。「ふー」

~~~~~

■ 9月8日（月）：総会の翌日、ほっとして、映画を見る

「映画『チップス先生さようなら』で考えたこと」

テレビの映画劇場で、「チップス先生さようなら」を見た。若いときに本を読んだ記憶があるが、映画を見てこんなにすばらしい話だったのかと思いおこした。

ご存知のようにチップス先生は、ロンドンのパブリック校のラテン語の先生で、いつも頭に四角い大学帽子をかぶり裾の長いマントを着ている。いかにも古めかしく真面目な先

生だ。物語は1924年から始まる。正確にはチップス先生と呼ばないといけないのだ。厳格な性格で冷酷と評されているが、深く生徒を愛していて本当は優しいのだ。ある朝、生徒が遅刻して走ってくるのを見て、その生徒を呼び止めた。先生は、生徒になぜ遅れたのかと聞く。生徒の答えでは担任の先生を説得する力がないと考える。そこで、「私に呼び止められて遅くなりましたと説明しなさい」と生徒に話す。生徒は喜んで「ありがとうございます。」の言葉を残して教室に走っていった。横に立って見ていた仲良しの同僚の先生は、「ちっとも冷酷ではない」とチップス先生の優しさを褒めるのだ。

チップス先生は、校長をリタイアするときに生徒の圧倒的な感謝の気持ちで声をかけられながら、惜しまれて講堂を退出する。しかし、なおも学校に留まっている。何年か後になり、髪が真っ白になったチップス先生は、椅子に座りながら棚に飾られた妻の若かりし頃の写真と妻からもらった小さなアポロ像を見ながら、

「最近思うことは、自分はラテン語を生徒に教えてきたけれど、これが生徒にどんな役に立ったのかと思う。・・・ただし、礼儀と規律だけは教えることができた。これが大事なことなのだ。」

と語る。

このラストシーンの言葉がボーイスカウトに対するリーダーの接し方と重なり、ずしんと胸に響いた。

子供の教育は昔も今も変わらない。躾は大切なことだ。躾が悪ければ世の中まで変わってしまう。この頃のチップス先生は、終戦後に校長になってしばらく経ってからなので、50年ぐらい前のことだ。どこの国であっても、子供が立派な大人になるために厳しく躾を教えることが必要でしょう。生徒達は先生を冷酷と評しながらも、その教育の重要性を体得できていたからこそ感謝の気持ちを持つことができる。

ちょっと気になっていたこの話のタイトル、「チップス先生さようなら」は、どうも話の筋からそのような状況が現れてこないなあと、納得できないままに映画の終盤になった。先生が、先ほどのように昔の回想をしているところに、新入生が先生を訪ねてきた。先輩からの命令で、何も知らない新入生に怖いチップス先生を訪ねさせるのが恒例になっていた。その生徒が自分の名前を言う。その名前は先生にとって聞き覚えのある名前だ。先生は、

「君には申し訳ないことをした。君がテニスの決勝戦に出ることになっていたのに、補習をさせて出られなくさせてしまった。」

と言う。

生徒は、言う。

「私は初めてお会いしますので、人違いです」

「では、お父さんか？」

「いいえ、父はこの学校ではありません」

「では、おじいさんか」

と昔、厳しくした生徒のことを思い出していた。その生徒というのは有力者の息子だ。その日の12時に学期が終わるのに、期末の補修を12時半まで行なった。その生徒は、補修に足止めさせられてテニスの決勝戦にでられなかった。そのために、他の生徒が優勝してしまう。このことがその生徒の親である有力者から根にもたれた。理事会で決定した次期校長の内示まで、直前にその有力者が邪魔をしてしまう。その結果、現校長がそのことをチップス先生に伝える時間もなく、全校生徒の前で発表された次期校長は、チップス先生ではなく、先生が最も軽蔑している他の先生だった。自分の信念を通したけれども、生徒をテニス決勝戦に出してやれなかったことを長い間心の中で思い続けていたのだ。これも厳しさではなく、生徒を愛している現われなのだ。

そして、新入の生徒が部屋を退出するときに、なにげなく

「チップス先生さようなら」

と声をかけた。

この言葉がタイトルになったのだ。「さようなら」は特別な意味があるのではなく、挨拶ということだった。

しかし、話はそれで終わらない。そのときチップス先生は生徒に言う。

「そういう言い方は許さない。チップスではなく、チップング先生と呼びなさい。チップスの呼び方は、妻にしか許していないのだから。」

と言って言い換えさせる。

これも蹊です。そして、同時にこの映画のもう一つのテーマである奥さんとの深い愛について、視聴者は思い起こす。二人は、いつも一緒にいることが二人の幸せであると考えていた。その最愛の妻は、チップス先生が校長になったことを妻に知らせることなく亡くなってしまう。チップス先生は、校長になることを告げられて、それを妻に知らせようと、車で出かける妻を走って追いかける。その声が届かず、妻は知らないまま慰問に出かけた。そして、慰問先に墜落した戦闘機とともに命を奪われる。ただ一つ、チップス先生が「校長の妻」にさせたかったことが実現したことを知らないままに死んでしまう。チップス先生は、知らせることができなかったことが無念だったでしょう。訃報は、授業中に知らされた。生徒が

「先生、家に帰ってください。」

と勧めるが、先生は、

「まだ10分時間が残っている。」

と言って授業を続ける。

映画の話に気をとられたが、話を戻す。

この時代は、全寮制の学校で厳しい教育を行うことが伝統として受け継がれていた。その中で厳しさと暖かさを両立させながら、生徒を思いやる教師の情熱と生き方を表してい

る。これが、イギリス社会の人を作っている伝統であるということを主張しているのだろう。伝統が崩れつつある時代であったかもしれない。まじめで面白いわけではない先生は、勉強熱心で世界の権威の一人といえるほどの博学だった。ポンペイ遺跡で偶然再会した女優は、その魅力に惹かれて結婚する。これもまた、まじめに勉強することの大切さも大事であると言っている。

ボーイスカウトもイギリスから活動が起こった。われわれは、最初に規律訓練のプログラムから始める。私の経験では、20年前はかなり厳しくやっていた。吹田19団では、24人の集合時の整列では非常に厳しくやってきた。そんなにやるものかなという疑問は、20年経っても持っている。

10年以上前に、仕事でベルギーのブルージュに行ったときのことだ。公園でカブスカウトたちの興味深い光景を見ることができた。日曜日の朝に高台にあるホテルから近くにある大きな公園を眺めていた。そこにあちこちからカブスカウトのグループが集まってきた。興味深く眺めていた。十数人ぐらいで固まって歩いてきたグループがある。やがて、広くなったところで集会を始めた。まだ始まっていないような集合風景だったが、突然大きな歓声が聞こえてきた。みんなでエールを送っているようだ。整列もせずにあれほどの大きな声を出せる雰囲気すごいと思い、感動を覚えた。この一件以降は、整列に対して違和感を持つようになった。整列は必要だが、それだけに一生懸命になってもあまり意味がない。みんなで一生懸命すること、みんなで楽しめる雰囲気づくりをすることが重要ではないかと思う。形だけ整列しても心が集中していないのではなんにもならないし、「並べよ！並べよ！」では楽しいことではない。あの日の光景が実現できればいいなあと思い続けていた。今日はこの映画でまた久しぶりに思い出した。

このチップス先生は、厳しい躰を生徒に行なうが、いつも暖かく生徒を見つめているのだ。教育方法の一つの答えとして強烈な印象を受けた。

私は「形で教育するものではない。心を尖らせて躰けるものでもない」と考える。2年前にボーイ隊に上進した松本君に、「浜嶋隊長は、厳し、優しですね。」と突然言われたことがある。精一杯説明してくれたが、よく分かる言葉だった。スカウトたちに優しさも伝わっていたんだとうれしく思った。

~~~~~

## ■ 9月14日（日）：第1回目の隊集会の連絡

「9月21日は、第1回全日本豊中2団弓矢チャンピオン選手権大会」

入隊式の後、最初の隊集会が始まる。隊集会の案内は楽しい文面にすべきというのが私の考えだ。内容を知らせないという考えは間違いではないが、隊集会に参加させようとす

る案内はもっと重要だ。計画がきちっとできていれば難しいことではない。スカウトが楽しそうに集まる顔が見たい。

### 「第1回全日本豊中2団弓矢チャンピオン選手権大会」

こんにちは。お元気ですか。私は全日本弓矢チャンピオン選手権大会事務局の浜嶋です。

9月21日（日）に第1回全日本豊中2団弓矢チャンピオン選手権を開催します。あなたは舎営の弓矢大会で頑張りました。あなたの弓矢技術は、豊中地区で非常に優れていると判断しましたので、ぜひ参加して、チャンピオンを目指してください。なお、参加するための資格は、元気いっぱい大きな声をだすことですので、十分な準備をしてきてください。

~~~~~

■ 9月15日（月）：連絡への問い合わせ

「保護者からの問い合わせ：持ち物の整理」

今度次長になる金本航平君のお母さんからメールが届いた。隊集会で渡したステップ章が見つからないことの確認だった。これはスカウトの持ち物の整理のやり方を改善することへ発展させることにした。机の上の整理は、私もだらしませんが、カバンなどの必要な持ち物の整理は、しっかりとする必要がある。どのようにスカウトを変えることができるか工夫したい。

【持ち物の連絡方法】

カブ隊では、いつも同じものを用意するので、それらはカブ用品と呼んでいる。カブ用品のリストを渡して、それを見ながら用意してもらう。最もザックはカブ隊の専用ザックだから、おそらく中のものは入れたままになっている。このカブ用品ということで14個の持ち物は、個別に連絡は不要になる。そのため、いつもと変わるものだけを連絡する。カブ用品以外は、カブ弁当、水筒、タオル、防寒着、Tシャツの着替えなどがある。隊連絡で持ち物を指定する。たとえば、持ち物：カブ用品、カブ弁、水筒、タオルというような具合だ。弁当は、カブ弁当と自由弁当があるので、別項目になる。カブ弁当とは、おにぎりだ。アルミで包んで野外で手を洗えなくても、おにぎりに手を触らない状態で食べられるように考えた。おかずはない。ご飯の中にチキンなどを入れることは問題ない。カブ弁を食べると帰りはザックの中のスペースが空く。自由弁当は、箸で食べてもいい場合だ。ボーイ隊は常に自由弁当。自分で管理させているからだ。

ボーイ隊では、持ち物はもっと簡単にしてバリエーションを3つほど決めておく。それ

で、一言暗号的に言えば、持ち物が決まる。聞き間違いがなくてよいことと、連絡時間が短くなる。また、集合場所も決まっていて、これも暗号を使う。よく使う場所で、OSWは、岡町駅西口（Okamachi（岡町）、Station（駅）、West（西口））だ。

~~~~~

## ■ 9月21日（日）：隊集会当日は雨

### 「隊集会、奈々組長が頑張る、そして今日の報告」

隊集会は、9時から始まった。

部屋に入るとすぐに、2人の組長、大野君と奈々ちゃんを集め組長会議を行った。最初の隊集会だったので組長に話をしておきたかった。5分間だけだ。

奈々は、すごくやる気になっていた。8月は1年下の山寺君にやってもらいたいと逃げていた。また、母親のデンリーダーと妹が1組で自分だけ2組になるのは、泣き虫の奈々は大丈夫かと心配していたが、前回と違って、私の話も熱心に聞いて生き生きとしていた。

結果は、奈々は優秀スカウト賞を獲得した。

組長としてリーダーシップを発揮できたことが理由だ。

掃除のご褒美に自治会役員からお菓子をもらった時のことだ。私は、組長にスカウトにうまく配るように指示した。そのとき、左近君がチョコレートの「キットカット」が自分に当たらず、どうしてもほしい。みんなはずるいと主張して、騒いだ。しかたなく、私は奈々組長に声をかけた。

「奈々組長、しかの左近君がキットカットをほしいと言っているから、奈々組長のキットカットをあげてくれないか」

奈々組長は、いつもなら駄々をこねて泣き出したかもしれない。しかし、今日は違っていた。

「うん、いいよ。上げます」

とすんなり自分のキットカットを左近君に渡した。

私は、そこにいた吉田副長に「さすが組長だね」とそのことを言って、互いに「ちょっと変わったよ」と目で確認した。

お菓子を食べた後は、せっかく掃除をしたのに汚れてしまった。たたみの上を掃除した後、奈々組長に「机の上もきれいにしてください」というと、またすぐに自分のティッシュをザックから取り出して、拭き始めた。スタンプの話のときも、奈々組長は、デンリーダーと中心になりながら話をしていた。

隊集会終了後、家に帰って東京への帰り支度を行い、16時過ぎに家を出た。いつもの

ように新幹線に乗ってから、今日の報告を作成して保護者、リーダーに送った。

=====

◆保護者に隊集会の報告メール（9月21日（日）19：16）」

今日は作文を送ってください。

今日はあいにく雨になり、弓矢チャンピオン選手権ができませんでした。ざんね～ん！  
でも、10月5日に持ち越しします。

台風だけマークして、天気の変化を全く確認していなかったのも、朝からばたばたして  
申し訳ありませんでした。問い合わせのメールのやりとりがすごかったです。もう少しで  
遅刻しそうでした。反省しています。

警報が出ていたにもかかわらず実施しました。雨の状況の判断と室内であれば安全は問  
題ないと判断しましたのでご了解ください。

プログラムは、雨の場合の雨プログラムを事前に準備すべきことになっていますが、私  
はあまり真面目に対処していません。前日または当日対処することが多いです。カブ隊は  
基本的にはなんとか雨プログラムを実施して、隊集会を中止にしないようにします。今回  
は、昨日に状況を把握できていなかったのがいけなかったです。

さて、本日の報告です。

1. 荷物検査を入念に行いました。左近君の救急用具は隊で用意していますから、自分だ  
けに必要なものに絞ったほうが、ザックに余裕ができます。

検査後にザックにすべてのものを収納し、特定のものを取り出すゲームを行ないました。  
かなり早く取り出すことができていました。

筆記用具の鉛筆と消しゴムが、そのまま入れてあるスカウトが気になりました。小さな  
入れ物があるといいですね。鉛筆の場合は、芯が折れることもありますから数本必要かと  
思います。スケッチの場合は太めの芯や、Bや2Bもあるといいです。

うさぎスカウト、山田君、中崎君、左近君にバインダーを配りました。名前を書いてく  
ださい。

世界友情バッジをリサイクルの制服を着ているスカウトに配りました。右胸のちいさな  
バッジの上にバッジを隠すように付けてください。

2. 歌

旗揚げの歌、カブコール、連盟歌の練習をしました。なかなか覚えがよかったですよ。

3. スカウト祭のスタンプ

12月14日はスカウト祭です。左近君の誕生日でもあります。何の日ですかと聞くと

本人がまず第一に自分の誕生日と言いました。当日はお祝いですね。

スタンツのテーマと内容を考えました。

まず、みんなにどんなテーマがいいかを聞きました。よく話すスカウト、全く話さないスカウト、いろいろです。しばらくして、10分間で一人ずつ紙にキーワードだけでいいから考えて書いてもらうことにしました。その各自が考えたテーマを順番に発表してもらいました。1組は、無人島の生活、先住民族と悪い奴。昔話、キャラクタの合体など。2組はマジック、お笑い、昔話、サーカス、怖い話等でした。そこで、私の考えも説明しました。豊中地区では、環境アジェンダの取り組みを行なっていますから、環境問題に関してのみんなの取り組みをテーマにできませんか。環境を守るために、何に気を付けたいか、無駄なエネルギーは使わないようにすること、ゴミの問題、たばこの問題等について、こんなふうにしたらいいいという、主張をしてはどうですか。とお願いしました。

次は、このことを組単位で相談するように、デンリーダーを中心にまとめてもらいました。その結果は、すべてを網羅するすばらしい方法になったようです。つまり、1組では環境をテーマにして、無人島の先住民族に学ぶこと、それを現在の生活に持ちかえるシナリオです。2組は、環境問題を先ほど各自が出した昔話、お笑い、サーカスに当てはめたり、怖い話を作ったりします。いろいろな話を各自がシナリオとして考えます。これを脚本に変えてスタンツにします。そこで、さらに40分間、具体的な話にする相談を続けてもらうことにしました。様子を見ていたら、みんな熱心に話したり、書いたりしていましたので、具体的な話がいくつか出たと思います。この結果は、組集会で続けてもらいます。

今後は、シナリオを作成していきます。また、演劇の脚本にしてスタンツの練習に進みます。メールで各自の担当分をデンリーダーに送ってもらうようになると思いますので、協力をお願いします。

閉会儀礼の挨拶で、スタンツがおもしろい方向で進んでいます。努力は必要になるけど、お父さんやお母さん、他の隊がすごいと思うような結果になるように頑張ろうと激励しました。家庭でもシナリオを一緒に考えることで、話を広げたり、理解を深めるような話し合いをしてください。

隊では、シナリオづくりと演技指導を楽しくやって、スカウト祭で皆さんに楽しんでいただけるようにします。

#### 4. 各自の感想の発表

時間がなくなったのですが、一言だけ感想を一人ずつ言ってもらいました。全員言えました。すご〜いことです。

本日は作文をお願いします。スカウトには言っていないですが、よろしくお願いします。再度、書き方について説明します。

- ・200文字～400文字程度
- ・あらすじでなく、一番興味をもったことについて詳しく説明と気持ちを書く。

- ・うれしいことや楽しいこと、悲しいことも気持ちが分かる大げさな表現を使ってみる。  
(頭が天井にぶつかるほどうれしかった。悲しくて涙がコップいっぱい出てきた。)
- ・1週間以内に浜嶋にメールで直接送ってください。

以上です。上記の質問は私に直接してください。

=====

~~~~~

■9月22日(月):感想文がすぐに届いた
「金本君からの作文のやりとり」

隊集会の作文が、早くも届いた。金本君は、いつも隊集会から帰って、その日に作文を書くようにしている。また、作文を提出しなくてもよい日でも、家族の決め事として必ず作文を書くようにしている家族だ。すぐに提出してくれるので楽しみにしている。

=====

●金本さんからメール受信(9月22日(月) 23:27)

9月21日 1組 金本航平

今日は、『第1回2団弓矢チャンピオン選手権』だったけど、雨が降って中止になったので残念でした。

栗ヶ丘会館でゲームと掃除とスタントをしました。スタントは、環境をテーマにしようとしています。僕の役は先住民の役です。僕が先住民を選んだのは、簡単そうだからです。優しい先住民になりたいです。「頑張らなくちゃ」と思っています。僕が1番面白かったのは、最後にした的入れです。僕は3点しか入れられなくて悔しかったです。結果は、僕たち1組が18点、2組が25点で、今日の優秀組は2組でした。悔しかったです。次こそは、絶対優秀組になるぞ!!!

優秀スカウト賞は、松本奈々ちゃんが選ばれました。今日は元気が80%しか出せなかったもので、次こそは100%出して、優秀スカウト賞を貰うぞ!!!

=====

○メール返信(9月23日(火) 8:31)

作文ありがとう。

弓矢残念だったね。もちろん優勝を狙っていたのでしょう。今度は晴れるといいね。今

度、航平が優秀スカウト賞をとれるように応援するわ。フレー、フレー、航平。航平が選んだスタントの先住民は主役じゃないですか。頑張ろうね。優しい先住民というのは、どうするのでしょうか。航平が考えた先住民を、見ている人が感動するにはどうしたらいいかな。環境の話について先住民がどんなことを考えて、どんな決まりを作って生活しているのかな。それが出来上がるのが楽しみです。シナリオを考えることは、簡単じゃないと思うよ。隊長が、楽しみにしているのは、みんながしっかり考えて、感動するシナリオを作ってくれること。それをはっきりわかるように、前を向いて大きな声ではっきり言えることです。そうなるように、努力してくださいと最後をお願いしたんだよ。

でも簡単そうだから選んだというのは、次長としては目標が低くないかい。簡単な役はうさぎにさせてあげないと、うまいスタントはできないのじゃない。組長や次長は、自分のことよりも全体のことを考えて、役割を決めてほしいなあ。

シナリオは自分で考えてね。でもかならず、お母さんやお父さんに相談すること。もっとよくするためには、いろいろな人に相談することだよ。それでヒントをもらって、また自分で考えると、だんだんいいシナリオができてきます。自分でたくさん考えることができたなら、すごく楽しくなるよ。体の力を出すことだけが頑張ることじゃないね。辛抱強くシナリオを考えることも頑張ることです。

たくさん書いちゃった。航平がきちんと作文を書いているから、隊長も航平にヒントを考えることができたんだと思うわ。作文は一番に届きました。頑張ったね。

お母さんに感謝しなさいよ。じゃあね。

=====

●メール受信（9月23日（火）？：？？）

おはようございます

早速の沢山のお返事頂きありがとうございました

航平は少し苦笑いをしながら「わかった」と言いましたが、どこまでわかったのかは、「？」です。

金本

=====

○メール返信（9月23日（火）9：20）

航平君へ

努力は簡単そうでも、なかなかできません。今、隊長はスタントの発表のときのことを考えると楽しくてしかたがないです。カブ隊のスタントが終わると、お父さんやお母さん、それからたくさんのスカウトやリーダーが大きな拍手をくれます。「しんどかったけど、しっかり準備してよかったな。自分の書いたシナリオが一番かっこよかったわ。うれしい。」ときっと思うことになるわ。

それで、隊長も隊リーダーのスタンツシナリオを書いていますよ。今はまだ十分時間があるから、楽しくシナリオを書いています。航平はお母さんに相談できるから、羨ましいです。お母さんが、航平はすごいなあ。と言ってくれるシナリオを頑張って作ろうね。考えることは楽しいよ。妹の詩穂美にも聞いてみたらいいよ。みんなで考えたら楽しいでしょう。

=====

~~~~~

■ 9月28日（日）：感想文をまとめて配布

「9月21日隊集会の作文、第1回目の送付」

他のスカウトからも、隊集会の作文が集まってきた。とりあえず、1週間で集まった分だけをまとめて保護者とリーダーに送った。今年は、それぞれのスカウトに返信した私のコメントも一緒に送ることにした。

浜嶋です。

今日までの作文を送ります。

=====

1組 うさぎ 吉本明子

今回のカブの活動は、歌を歌うことに興味を持ちました。

なぜなら、「花はかおるよ」と「カブコール」と「旗あげの歌」がおもいきり笑いそうなくらい面白い歌みたいな感じだからです。「カブコール」を一生懸命練習して、歌詞を見ないで歌えるようになりたいです。

もう一つは、的入れゲームが面白かったです。新聞で切って丸めたボールを的にいれます。小さい的に小さいボールを入れたら100点で大きい的に入れると1点、あと中くらいの的に入れたら60点になります。わたしは思いっきり投げたら小さいボールが小さい的に入りました。でも、結果発表では、1組86点、2組92点で、1組が負けてちょっと悔しかったです。今度は勝ちたいです。

~~~~~

○隊長からのコメント：

2008/9/27 16:40

ありがとう。

作文上手に書けたね。詳しく書いてくれたから、集会の様子や明子ちゃんの気持ちがよく分かるよ。歌に興味を持ってくれたのはうれしいなあ。隊集会でいっぱい歌を歌いたいと思っているからね。

カブコールも連盟歌も旗揚げの歌も全部覚えてくださいね。

明子ちゃんは、小さいボールが小さい的に入ったの？すごいなあ。隊長は何回も挑戦してみたけど、あれは入らなかったわ。入りそうな感じがするけど、隣の的に飛んでいったよ。優秀組も負けちゃったね。悔しいから今度は勝とうね。応援します。

=====

2組 しか 山田巧

9月21日に隊集会がありました。弓矢大会の予定が雨で中止になりました。だから、栗ヶ丘会館でやりました。初めに歌の練習をしました。初めてだったけど、ちゃんと歌えてよかったです。隊集会で一番心に残ったことは、スタンツの話合いと的当てです。スタンツの内容に環境問題を入れましたが、最後までできなかったのが、宿題になりました。初めてやったので、ちょっと難しかったです。

最後に、的当てをしました。第1回戦で、僕は1回も点が入りませんでした。2組は、なかなか点が入らなかったのが1組が勝ちました。悔しかったけど、第2回戦では一点入ってよかったです。その後もいっぱい点が入ったので2組が勝ちました。とてもうれしかったです。第3回戦も勝ってうれしかったです。最後に、奈々ちゃんが、優秀スカウト賞を貰いました。僕も「いつか貰いたいな」と思いました。

~~~~~

○隊長からのコメント：

2008/9/24 22:44

ありがとう。

初めての作文をうまく書いたね。スタンツの話合いが心に残ったのはうれしいね。難しくても頑張ってくれたんだね。的当ても楽しくてよかったね。

優秀スカウト賞は、頑張れば貰えるよ。一日ずっと続けることが大事です。これも難しいから、少しずつやろうね。そのうち得意なことのチャンスが来るからね。我慢して気長にやってください。

=====

「的当てさいこー！」

2組 しか 山寺 優

1組と2組に分かれて的当てをした。20個のボールをみんなで分けてポケモンのダンボールに向かって投げた。投げる前は簡単そうだなあと思った。

そして2組の番がきた。僕は投げてみた。初めてで慣れてなかったのか、1球しか入らなかった。何回も何回も投げ続けて、まあまあ上手くなってきた。大きいボールを小さいボールに変えて投げてみた。でも、小さい穴には入らなかった。

悔しかった。僕は5つの穴のうち2つの穴にしか、入れることが出来なかった。

最後に差が開いたままチームで4点ぐらい入れた。ぼくは、負けたあ・・と思いながら吉田リーダーの結果発表を聞いた。勝ったのは2組だった。僕は、心臓が飛び出すほどうれしかった。次の試合では5つの穴全部に入れたと思いました。

~~~~~

○隊長からのコメント：2008/9/27 18:10

ありがとう。

「心臓が飛び出すほどうれしかった。」は、花丸表現ですね。それほどうれしかった。よかったね。勝負に勝つと気持ちがいいですね。これからは勝ち負けが多くなるから、負けたときも平気な気持ちを持てるようになろうね。そして頑張ろう。

=====

1組 しか 中崎武蔵

21日は、晴れだったら弓矢をやる予定だったけど、雨になったから弓矢じゃなくて室内でゲームをしました。その中で一番楽しかったのは、的入れです。なぜかという、いっぱい入ったからです。

最初の方はぜんぜん入らなかったけど、後で2点連続で入ったからです。

他にも1回投げて1点入れたりしました。でもお父さんは8回入っていました。すごかったです。

組長もけっこう入っていました。でもまた、あんまり入らなくなってきました。残念でした。しかも1組が負けました。悔しかったです。今度は勝ちたいです。

○隊長からのコメント：

的入れが楽しかったんだね。またやりたいみたいだね。バザーのときにやろうかな。中崎デンリーダーはすごかったね。隊長も1組の応援で点を入れたけどかなわなかったね。ごめんなさいね。

武蔵君にお願いしますけど、お父さんのことはこれから中崎デンリーダーと書いてね。

~~~~~